

2025 年度第 3 四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時：2026 年 2 月 12 日（木）16 時 30 分～17 時 30 分

当社出席者：代表取締役社長 大治良高、専務取締役 古川敏之、取締役 小林啓一

主な質疑応答：

【全体】

Q) 第 3 四半期業績の想定との差異は。

A) 想定に対し、売上高は全事業が上振れとなった。営業利益は時計事業と工作機械事業が大幅上振れし、デバイス事業も上振れた。時計事業の北米の好調に加え、工作機械の増収が貢献した。

【時計事業】

Q) 好調な北米の市場環境について。

A) 北米は第 2 四半期に引き続き好調が継続した。各主要流通が好調に推移したほか、収益性の高い自社 EC が大幅に伸長し、売上構成比が主要流通と同水準まであがってきている。米国の追加関税対策として昨年 6 月に実施した小売価格の値上げ後もセルイン・セルスルー共に好調に推移している。

Q) 国内の内需とインバウンド需要について。

A) インバウンド需要は、中国の渡航自粛による団体客の減少などにより減収となった。内需は、『カンパノラ』などのプレミアムブランドが好調に推移し、前年並みの実績となった。

【工作機械事業】

Q) 受注動向について。中国の受注を牽引している半導体関連とは。

A) 中国で需要が高まっている半導体関連とは、半導体検査装置のプロープピン加工用とデータセンター向けの冷却装置用。中国の受注台数が大きく伸びているほか、国内を含めた先進国も緩やかに受注が回復しており、第 3 四半期のグローバル全体の受注金額は過去のピーク時の水準に近づいている。

Q) 今後の受注トレンドについて。

A) 中国の受注はしばらく続く見通し。先進国については緩やかな回復途中であるため、今後の状況を注視していく。特に自動車関連の投資回復時期に注目している。

以上